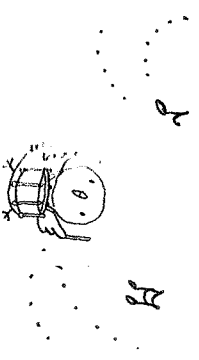




いずみのひろば



ヨナさんを愛する神さま

ヨナ書 4章1～10節

ニネベの町をほろぼすのをやめた神さまに向かって、ヨナさんは怒ります。

「やっぱり！こうなると思ってたんだ！神さまがニネベの町をほろぼすはずがないんです！」

ヨナさんは、ふいつ、と怒って町をはなれました。

そこは、とても暑いところでした。それで神さまはヨナさんのために、大きな木を作ったあげました。

「あ～、涼しくてキレイい～！」ヨナさんは上機嫌です。

ところが、次の日、せっかく作った木を、神さまは枯らしてしまいました。

「なんで？せっかく涼しかったのに！」ヨナさんはくやしがります。

さらに、神さまは、とても暑い風を吹きつけたので、ヨナさんは、ぐったりしてしまいました。

「もう暑くて、しんどすぎる！こんなことなら死んでしまったほうがまだ！」

そんなことを言うヨナさんに、神さまは言われました。

「おまえは、一日でできて、一日でなくなった木を残念がっているけど、

だったら、ニネベの人たちの命をほろぼしたくない、私の気持ちかわかるでしょう？」

ヨナさんは、神さまの言葉にさからって逃げたり、文句を言ったり、ちよと自分勝手にすね

でも、神さまはヨナさんに怒っているわけではありません。

ニネベの人たちを愛する神さまは、ヨナさんのことも、もちろん愛しているのです。

だから、大きな魚に飲みこませて助けたり、大きな木を作った涼しくしてあげたりするんです。

魚のお腹に閉じこめたり、せっかく作った木を枯らしたり、そんなこらしめもするけどね！

そうやって神さまは、いつもヨナさんのことを見ていて、ヨナさんと一緒にいてくださいます。

ヨナさんを愛する神さまは、私たち一人一人のことも愛していて、いつも一緒にいてくださいます。



(おはなし こぼやしもとこ先生)